

# TPL エディタ v0.00 系が出力するファイルの構造

(製作 2000/9/10 , 改訂 2012/1/10)

	+0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+a	+b	+c	+d	+e	+f
00	w	n	c	o	m	r	T	P	L	0	0	0	¥0	1A	予約	予備フ
10	← 予 約 →															
20	← TPL エディタ名とバージョン番号(ASCIIZ) (MAX 15byte) → ¥0															
30	← TPL エディタの作成元名(ASCIIZ) (MAX 15byte) → ¥0															
40	← TPL ファイルの作成者名(任意) (ASCIIZ) (MAX 31byte) →															
50	¥0															
60	← TPL ファイルの作成会社名(任意) (ASCIIZ) (MAX 31byte) →															
70	¥0															
80																
90	← TPL ファイルのコメント(任意) (ASCIIZ) (MAX 47byte) →															
a0	¥0															
b0																
c0	← 予 約 →															
d0																
e0																
f0	作成年:ASC			月:ASC		日:ASC		時:ASC		分:ASC		秒:ASC		¥0	予約	
100	NCShed		← 予約 →													
110	学年 ofs		学年 byt		科 ofs		科 byt		組 ofs		組 byt		番 ofs		番 byt	
120	氏名 ofs		氏名 byt		性別 ofs		性別 byt		← 予約 →							
130	問 ofs		問数 byt		← 予約 →											
140	予 1 ofs		予 1 byt		予 2 ofs		予 2 byt		予 3 ofs		予 3 byt		予 4 ofs		予 4 byt	
150	予 5 ofs		予 5 byt		予 6 ofs		予 6 byt		予 7 ofs		予 7 byt		予 8 ofs		予 8 byt	
160	← 予約 →															
170	← 予約 →															
} }																
1f0	← 予約 →												rnd16b		CRC	R

+0Fh のフラグの構造は bit0 が予備 1 ~ bit7 が予備 8 の使用状態である

+1FCh と +1FDh には乱数を入れる(CRC を隠すため)

+1FEh の CRC は+0 から+1FDh までを XOR したものである(スタート値は 0)

+1FFh の R はリードオンリ属性用であるが現在バージョンでは未使用

\* +0 ~ +b までは'wncomrTPL000'の ASCII 文字

\* 2Byte になるものはすべてリトルエンディアンで格納(ASCII 文字除く)

\* 2Byte 値の範囲は 0 ~ 65535(unsigned)

\* 2Byte 値の範囲は TPL エディタによって 0 ~ 255 までしか入力できない(v0.00 系)

\* TPL ファイルの作成者名・作成会社名・コメントは ShiftJIS 仕様(Unicode 非対応)

\* TPL エディタ名とバージョン番号および作成元名は ASCII 文字コード推奨